

3月定例記者懇談会

令和8年3月25日(水)

11時00分～12時00分 203会議室

出席者：みのわ新聞、長野日報、伊那ケーブルテレビ、信濃毎日新聞、中日新聞 事務局：唐澤、鈴木、小笠原、濱、荻原
--

町長月間予定(総務課)

○月間行事予定の説明

町の主なトピックス(担当課PR分)

- 町民体育館リニューアルオープンについて(文化スポーツ課スポーツ振興係)
- 2050ゼロカーボンみのわ推進事業について
ゼロカーボン関連事業実施事業所の募集について(総務課ゼロカーボン推進室)
- 箕ルプロジェクトについて(くらしの安全安心課多文化共生・男女共同参画推進室)
- 多文化共生のまちづくりプロジェクトについて
(くらしの安全安心課多文化共生・男女共同参画推進室)
- 令和7年度箕輪町17歳町民意識・生活実態調査結果について
(くらしの安全安心課多文化共生・男女共同参画推進室)
- 令和7年度箕輪町住民満足度調査結果について(企画振興課まちづくり政策係)

町長コメント

1 町民体育館リニューアルオープンについて (文化スポーツ課スポーツ振興係)

○概要

別添資料 (p2-4) にて説明

- ・従来文化センターや学校で行っていたスポーツ施設の受付や料金收受、鍵の受渡し機能を町民体育館で一括して行う。
- ・5月30日(土)リニューアルオープンイベント開催予定

(町長) 町民体育館、武道館ともに、大変長く工事期間がありましたが、この間、事故もなく完了しありがとうございます。また、地域の皆さんにも大変ご迷惑をかけてきましたので、そういった意味では皆さんにまた見ていただきたい施設になったと思っています。

国民スポーツ大会を控えているということと部活動の地域展開もあり、大変大きく変化していく状況になってきています。町体を使いながら、町のスポーツに関わる部分を集約していくということが、できると思っていますので、ぜひ町民の皆さんにもお知らせをしていきたいと思っています。

そういった環境の変化に十分対応するという意味で、スポーツ振興計画も来年度策定をしますので、それに合わせて単にスポーツをするだけではなく、支えてもらいたいということももちろんありますし、町民の皆さんの健康づくりの一番の場でありますので、拠点としての活用を期待したいと思います。

5月30日がオープンイベントということでほぼ決まってきましたので、また後日具体的な内容をお知らせする段階になると思いますが、よろしくお願いします。

(記者) オープンイベント前に一般の方やメディアへの公開は予定されていますか。

(担当) 具体的な日取りは未定ですが、一番ご迷惑をおかけした近隣の皆さんやスポーツの団体、スポーツ施設を主に使っていた団体向けに見学会のようなものは企画する必要があると考えています。メディアの皆さんにも、一般開放の前に施設をご覧いただくような機会は設定したいと考えています。

2 2050 ゼロカーボンみのわ推進事業について ゼロカーボン関連事業実施事業所の募集について (総務課 ゼロカーボン推進室)

○概要

別添資料 (p5-11) にて説明

(町長) ゼロカーボンについては、町で取り組んできており、国の事業も残り2年となっています。その中で2030年のCO2 60%削減という目標値をクリアするには、ここが一番のところ

になってきており、公共施設への太陽光等は実施しましたが、公共施設はその削減量から言えばわずかなものなので、もっと広がっていかねばいけないとなると、家庭と車と事業所の3本ですが、ご家庭に対しては省エネも含めた周知PR、啓発を行っていきます。

車については、EV等普及していくことが大事だと思います。

事業所については経済状況にもよるので、厳しい面もありますが、説明した支援をさせていただきますが、なかなかサプライチェーンの中でやらなければいけないことということはわかっているながらもできないという部分が現実あります。また、屋根等の構造上の問題によりできないというところもあるので、全てというわけにはいきませんが、そういった点も含めて理解をしてもらうには、このようなシミュレーションをかけていくとか、可視化させることが必要なので、今回の事業に取り組みます。

今後1、2年で形を作らないと、もう残すところ3年、4年ですので、何とか町としては、ここまでやってきた以上は目標値を達成したいと思っていますので、正念場だと思っています。

そんなことで来年度の事業を展開してまいります。

また、上伊那地域全体で上げていくという役割は箕輪町と伊那市は持っていますので、この取組みを推進したいと思っています。

(記者) 事業所向けの太陽光発電設備等経済効果シミュレーションの方は、補助金を受けてない事業所向けかと思いますが、CO2排出量見える化サービスの方は何か補助金を受けている、受けていないという何か条件みたいなものはありますか。

(担当) 特に指定条件はありませんので、町内の事業者であれば、基本的に皆さん対象にする予定です。

(記者) 事業所が進んでいないという話もあり、事業所の実績が令和6年から7年で5件と2件ということですが、元々の想定はありましたか。

(担当) 事業所の太陽光発電設備の想定ですが、6年度から事業所に対する太陽光の補助金をスタートしまして、6年度と7年度で計6件を目標とし、それに対して5件という実績になっています。

設備の容量についても、具体的に数字がすぐ出ませんが、想定を下回っている状況です。

3 箕輪プロジェクトについて (くらしの安全安心課 多文化共生・男女共同参画推進室)

○概要

別添資料 (p12-13) にて説明

4 多文化共生のまちづくりプロジェクトについて (くらしの安全安心課 多文化共生・男女共同参画推進室)

○概要

別添資料 (p14) にて説明

- ・令和7年度日本語教室開催実績
 - オンライン教室 21回
 - 木曜日クラス 21回
 - 土曜日クラス 35回
- 延べ794人受講

(町長) 担当から説明があったとおりですが、最近の日本が分断社会のような傾向が垣間見えて、物価高騰等から出てきていると思いますが、貧困の方の多さが非常に見えます。

この多文化共生の部分で言えば、外国人を言われなき排斥をする感じが非常に見え、地域社会においても分断社会になってはいけないなと思っていますが、その中で反省しなければいけないのかもしれないこととして、10年前に国際交流協会を廃止したことです。

交流の時代ではなく共生の時代に、日本人と外国人が交流する必要はないと思って交流協会を廃止、解散しましたが、今になってみると交流が変な形になっているというのが見えたりして、社会のありようを考えていかなければいけないと思っています。

今説明あったように、その上で多文化共生推進計画を作ろうとしていますが、国の段階でいろんな議論がされていて、別に自治体がそれに縛られることは全くないですが、国の制度の方向がどうなるかわからない部分があるので少し止まっています。それと県のこともありますので、その辺も見ながらということですが、共生社会を作っていくということには何の迷いもありませんので、その方向で来年度は計画策定したいと思っています。

ただ住民の皆さんの意向や考え方、また政治の世界も同様で変わってきているので、そういったところも捉えながらと思っていますが、この事業は大変大事な事業で、これが最終的に男女共同参画やジェンダー、移住定住などまで繋がっていくので、町のありようを作るには大事な事業だと思っています。

その点で担当課にも頑張ってもらいたいと思っています。

(記者) 町内にいる外国人の方の6割が永住定住ということですが、外国人の住民の方は今何人ぐらいいますか。

(担当) 令和8年3月1日現在で858人です。割合としては3.6%です。

割合として県で一番ではないですが、全国平均に比べれば高いです。

(町長) 町の産業も産業構造から、製造業に大勢来ていたときは1,500人から1,600人ぐらいでしたが、リーマン・ショック以降激減し、それから盛り返して、また以前のような形に戻りつつあるところ です。

5 令和7年度 箕輪町 17 歳町民意識・生活実態調査結果について (くらしの安全安心課 多文化共生・男女共同参画推進室)

○概要

別添資料 (p15) にて説明

(担当) 今年度でアンケートを取り始めて 10 年経過したので、令和 8 年度は 10 年分のデータを比較検証し、若者の傾向を把握した上で、少子化対策や若者流出対策など、町の今後の若者政策等に生かすために、若者実態調査と若者座談会事業の方を行います。

(町長) この調査は高校 3 年生への調査なので、どんな数字が出るかは正直よくわからないところですが、中学、小学校の時代に箕輪学を入れて、町に対する愛着を持ってもらいたいということで進めてきて、その後高校生、進学時期、就職時期になって、どのように変わっているかを見たいこともありましてこの調査をしています。以前に比べると、愛着や今後住みたい、暮らしたいというのは増えている感じもしますが、一方でなかなか実態がそうになってこないことがあります。気持ちの世界と実態が合わないと思っていますが、これは着実に進めていかないと、この地方としてはならない問題ですので、今担当が申し上げたように、若者が選ばれるまち、女性に選ばれるまちという意味では基礎的な部分の調査であると思っていただければと思います。

これが本当の子どもたちの彼らの意識なのかというのは、なかなか読み切れないところですが、分析を期待しています。

6 令和7年度箕輪町住民満足度調査結果について (企画振興課 まちづくり政策係)

○概要

別添資料 (p16) にて説明

(町長) これは調査結果どおりですが、問 6・7 の「子どもに住んで欲しい」、「子どもに帰ってきて欲しい」の部分がどうにも増えない。地域への愛着度や住み続けたいという割合は 7 割とか 8 割という数字になっていますが、今外に出ている子どもに対してどう思うか、これから帰ってきて欲しいかとなると、この 4 割という数字になってしまいます。

これはもちろん子どもの自由でもあり、子どもの生き方に任せますという親心ですが、そのような親心を捨てて町に帰ってこいと、この上伊那も働く場所はいくらでもあると、企業もあるというように言ってもらえると、だいぶ変わるのではないかとあって、ここの割合を増やしたいと思っていますが増えません。どうしたらいいか教えてもらいたいくらいですが、そういった意味で親の意識を変えていかないと実は U ターンは進まないと思っています。

この数字を変えることが私たちにとっては非常に大きな問題です。

(記者) 愛着度、満足度ともに高い水準で毎年推移しているかと思いますが、そこに関してのご感想をいただきたいのと、今お話のあった住み続けたい人は多いが、子どもたちに帰ってきて欲しい、住み続けて欲しいというのが少ないというところで、お子さんの意向を尊重する気持ちが大きいと思いますが、具体的にはどんな要因が考えられるのかあればお伺いします。

(町長) 愛着度や住み続けたいなどのレベルについて、箕輪町の持っているポテンシャルは一定のものがあると思っています。それは自然とかだけではなくて、生活の利便性や都市部への近さなど、そういった意味では上伊那地域全体がそういう面があると思っていますが、そういうポテンシャルがこの地域にはあって、働く場所、住む場所、生活の場所、そういう場所があるということが、この数字に表れてきているのではないかと理解していいと思います。

子どもに住んで欲しい、帰ってきて欲しいかというのは、働く場所を選択する時に大きな問題だと思います。それと若い方の持っている魅力感と年配の者が感じる魅力感とは違うので、どうしても引っ張ることができないと思います。

特に女性についてはそういったところがあり、いろんな施策を打ってみても、また経済的な支援をしてみても、そこまでなかなか追いつかないことが残念ですが、先ほどの17歳の調査のように、地道にやっていくしかないと思っています。

それと魅力度を上げたり、知名度を上げたり、また教育みたいなもので皆さんに理解をしてもらわなければなかなか進まないなと思っています。

○町長コメント

水不足の問題があり、今後の雨量に期待したいと思っています。

箕輪ダムは通常、水の豊富なダムですので、飲料水や生活用水に困ることはなく、飲料水は今困っていませんが、農業用水がだいぶ少なくなっているお話を東箕輪の住民の皆さんから聞いているようでして、決して流している量を減らしていることはないですが、貯水率が例年より3mか4mぐらい低くなっています。

これからあと1ヶ月で田んぼが始まり、代かきの時期に一齐に入りますので、そのときに心配と思っています。雨頼みであります。

天竜川の水位も非常に低いですし、西天竜に入っている水の量もかなり減っているので、その辺もこれから農業用水として使うものについては何とかしてほしいと思っています。

国道153号線バイパスですが、4車線の区間の信号機のない横断歩道4ヶ所について廃止しました。県内でおそらく箕輪町も含め5箇所ぐらいしかなかったと思いますが、そのうち箕輪町の4箇所全てを撤去していただきました。

住民合意もできて、警察署や建設事務所と調整し、ご協力いただいて、撤去できましたが、今

まで信号機がなくても、そこを横断歩道として利用していた皆さんが非常に多いものですから、交通事故がかえって心配な部分が当初はあります。

ですので、私達も広報等を通じて事故のないように、通行しないようにということをお願いしていますが、その辺をまた徹底していただければありがたいと思います。

令和7年度も大変お世話になりましてありがとうございました。

事業の方は順調に進捗したと思っております。70周年の記念事業についてもご協力いただきまして、改めて感謝を申し上げます。

ただ振り返ってみまして、人口減少が私達が思い描いていたよりもちょっと顕著になってきているかなという感じをしています。

他の市町村と比べますとそこまでの減少率ではないですが、人口ビジョンで私達が考えていた以上に自然減も含めて、少し減少気味なので、この部分を少し考えていかなければいけないと思っています。

それに合わせて地域コミュニティだけでなく、関係団体などが高齢化や担い手不足で力が弱まってきているので、活性化策をもう一度考えるということと、地域の役割をずいぶん考えてやってきたつもりですが、上伊那地域の中でも例えばコミュニティの役割をもう一度見直すような動きもいくつか出てきていますので、町としてももう少し考えなければいけないのか、その逆に地域ってこういうものかというようにやっていった方がいいのか、考慮する時期に入ったかなと思っています。

区に入らなくてもいい状況や団体が解散すればいいというように言ってしまうと、地域が完全に弱まってしまいますので、そこはそれでは駄目だという考え方をもう少し表に出して、町がやっていった方がいいのか、それとも住民組織に任せ方がいいのかというのは、別れ道になっていると思っていますので、来年度はそこも頭に置きながら考えていきたいと思っています。8年度は、そこを考えていきたいと思っています。